



学校法人志賀学園  
久之浜こども園  
令和3年6月30日

ミニトマトに黄色い花が咲き、あおイトマトの実に雨上がりのしずくがキラリと光って宝石のようです。岡田副園長が丹精込めて作っているプランター農園にはミニトマト・ゴーヤ・ニラ・枝豆が育ち、生長を楽しみにしている子ども達。伸びてきた枝豆を見て「緑の豆がなるのが楽しみだね」「枝豆はお父さんがビールを飲むときに食べるんだよ！」と子ども達の会話が弾んでいます。自分たちが蒔いた種が芽を出し枝が伸びてきたのが嬉しいらしく生長を見守っています。

ビオトープのクローバーの葉っぱが生い茂りシロツメクサが咲きました。吉岡元校長先生が、フナを釣ってきて放してくださり、一番上の池にはフナが5匹になりました。2番目の池には卵から孵ったメダカもスイスイと泳いでいます。一番下の池ではオタマジャクシが大きくなり、後ろ足が出て前足も出てきたので、蛙に変態するのに備え、陸を作ってあげました。

5月の大雨で池の水が溢れて、オタマジャクシが排水溝に流されてしまったことを、卒園生で現在保護者の遠藤ホーム板金さんに話したところ、ボランティアで雨水の逃げ道を考えてくれ配管工事をしてくれました。配管がつながっていく工事の様子を見ていた子ども達は、あこがれの眼差しで集中して見ていました。

地域の皆様のご厚意のおかげで、ビオトープがどんどん進化しています。

植物や小動物などの自然に触れ、子ども達の会話の内容も深まっています。人的環境・物的環境次第で言語力がかなり育ってきます。そうした時に、子どもからの発言に対して、直ぐに大人の意見を被せていくようなかわり方から、ちょっと間をおいて、次に子どもがどんな意見を出すのか、見守る意識が大切と感じているこの頃です。そうすると、子どもの発想に基づく素敵な会話の展開がみられる時があります。親子で会話するときも、親が会話をリードしなければならないという意識が働いてしまうかもしれませんが、ちょっと間をおいて、聞き役にまわるのも良いかもしれませんね。

さて、もうすぐ七夕です。園では今盛んに笹飾りの制作活動が進んでいます。短冊には憧れや夢など願い事を書くことを伝えたとこ「走るのが早くなりたい」「ピアノが上手になりたい」「警察官になりたい」と短冊に自分の思いを書き、園全体で笹飾り作りを楽しんでいます。

コロナ禍で今年も平の七夕祭りは中止になりますが、3密に気をつけ園内で七夕飾りをしたり年長さんの夏まつりをささやかに行いたいと思っています。